

特集

新装置トピックス

全身用放射能測定装置

ホルボボディカウンタ

「全身用放射能測定装置」とは、体外に設置した検出器で人体内部に存在する放射性物質の量を測定する装置で、ホールボディカウンタとも呼ばれます。

装置の形態には椅子型・立位型・ベッド型の種類があります。当院の装置は椅子型になっており、検査時の負担の少ない装置です。

椅子の背面に設置された検出器によって、約5分間で内部被ばくの測定を行います。検査は5分間



ですが様々な校正・補正を行い、正確な検査を行います。ホルボボディカウンタは原子力災害が発生した際に、放射線被ばくを受けた方を検査するための装置です。内部被ばくの状況を正確に求め、その後の治療に役立てることを目的としています。

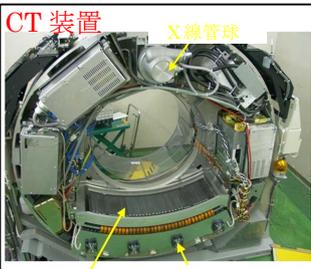
「ご存知ですか？」

CT検査・MRI検査

皆さんはCT・MRI検査の違いをご存知でしょうか。「トンネルの中を通過して輪切り画像を作る?」・「放射線被ばくが有る?無い?」・「磁石を使っている?」といったイメージでしょうか。CT検査は、ガントリー(トンネル)内を通過するときX線を照射し、計算により画像を作成します。MRIに比べて検査時間が短く広範囲が撮影できます。

MRI検査は、ガントリー内に巨大で強力な磁石(超電導磁石)が存在し、体内に存在する水の分子を元に画像化します。CTに比べ放射線被ばくが無く、撮像法を変化させ病気の質的診断を行います。それぞれの装置に得意な検査部位・

メリット・デメリット・検査上の制限等があります。各々の特性を活かした検査を選択し、患者さんへ最適な医療を提供しています。



造影CT検査時の注意とお願い

一日の造影検査で、最も造影剤が使われるのが造影CT検査です。検査範囲にお腹を含む造影CT検査では、検査前に3時間の絶食をお願いしています。これは、①造影剤の副作用の一つの嘔吐のリスクを下げるため、②腸の消化運動による動きを抑えるためです。

また、「絶食」と混同されがちですが、水分の摂取は問題ありません(乳製品は除く)。また、水分摂取により副作用の発生率が低減するといふ報告もあり、他の検査等で水分制限が無ければ水分を摂るようにしてください。造影剤を尿中に迅速に排出するよう、積極的な水分摂取が望まれます。

今回は造影CT検査についてのお話でしたが、検査ごとに様々な制限がある場合があります。検査についてわからない事・心配な事などありましたら、お気軽にスタッフにお声かけ下さい。